

## 2022 年度グローバル会計学会賞

学会賞：該当なし

学会奨励賞：山下悦史著「決算公表日と利益調整の関連性」

『グローバル会計研究』第4号，2023年3月，49-62頁。

### 【推薦理由】

本論文は、決算公表日の遅延と利益調整の関連性を、実証的に分析したものである。すなわち、本論文において著者は、実績が業績予想を上回っているグッドニュース企業について、決算公表日を遅延させている間に当該企業が、会計的裁量行動を行っている可能性（仮説 1-1）、および実体的裁量行為を行っている可能性（仮説 1-2）を、わが国の上場企業をサンプルとして検証している。その結果、仮説 1-1 についてはこれを支持する証拠が得られたのに対し、仮説 1-2 についてはこれを支持する証拠が得られなかったことを、著者は報告している。さらに追加検証において、グッドニュース企業のうちデフォルトの可能性の高い企業はデフォルトの可能性が低い企業に比して、会計的裁量行動ベースの利益調整を行い、決算発表が異常に遅くなる傾向がある可能性（仮説 2）を検証し、これを支持する証拠を著者は報告している。

本論文の最も大きな学術的貢献は、デフォルトの可能性が高い決算公表遅延企業は会計的裁量行動を行ってグッドニュースを公表していることを発見したことである。かかる発見は、わが国の会計研究においてはもちろん、アーカイバル研究の先進国であるアメリカの先行研究においても先例を見ない、新規的なものである。デフォルトの可能性が高い企業が決算公表を遅らせてグッドニュースを公表した場合、当該企業は利益操作を行っている可能性が高いため、その決算内容については慎重に解釈する必要があるという警鐘を、投資家一般に向けて発出している点で、本論文の社会的意義は極めて大きいと評価できる。

以上、研究課題の重要性と研究の今後の発展可能性を有することから、本論文はグローバル会計学会への今後の貢献が期待できる。したがって本審査委員会は、学会奨励賞を授与するものである。